



# 本郷台小 だより

9月

横浜市立本郷台小学校

令和4年8月31日

栄区本郷台一丁目6番1号

TEL 045-893-4010



学校ホームページ：<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongodai/>

## 記 憶

校長 原 南実子

東門の花壇にひまわりが咲き誇っています。このひまわりは3年生が苗を作り、植えたものです。夏休み明けの子ども達を、ビタミンカラーのひまわりが明るく迎えてくれました。ひまわりを植えるにあたっては、花ボラの皆さんが花壇の整備をしてくださいました。また、学校たんけんで花ボラさんとつながりをもった1年生の子ども達が、花ボラさんがひまわりを植える場所を整備しているとき、自分たちも一緒にやりたい！と、草取りを手伝いました。人々がつながる、そんなストーリーをもってひまわりが咲いています。9月初めの授業参観の折には、そんなことも思いうかべながらひまわりを見ていただければ嬉しく思います。

さて、今年の甲子園は仙台育英高校が東北勢として初めて優勝しました。神奈川県代表の横浜高校も素晴らしい健闘でした。私は高校野球が好きで、以前、市役所に勤務していた時、県大会予選会場の一つである横浜スタジアムから、開会式や試合のアナウンス、応援が直に聞こえてきたのですが、直に聞こえるそれらの音に高校生たちの姿が思い浮かび、胸を熱くしていました。今年の高校野球では、試合はもちろんです、心を熱くさせる別のものと出会いました。それは、元日本ハムファイターズの齋藤佑樹投手の手紙です。栄光と挫折、試練を乗り越えて戦い抜いた齋藤投手から発せられる言葉は、本郷台小の子ども達の成長に深く思いをはせるものとなりました。

この夏にすべてをかける君へ

暑い日が続きますが、体調など崩していないでしょうか。

体格も投げかたも似ている、そして夢が叶うことを1ミリも疑っていない君と出会ったときから、僕はずっと、16年前の自分を重ねていました。

その夢はきっと叶うよ。とは、僕は言いません。

勝負はわからないから。おなじ夢を持った人たちのぶつかりあいだから。

ただ、今のまっすぐな君のまま、どうかこの夏のマウンドに立ち続けてください。

これから先、グラウンドでもグラウンド以外でも、君をいろんな出来事が待ち受けています。

僕のように、不安だらけの時期を過ごし、挫折を味わうこともあるかもしれません。

それでもなんとか前を向くために必要なもの。それは記憶だと思います。過去の栄光、だなんて言われることもあるけれど。最後まで闘い抜いた記憶は、未来を生きる大きな力になります。なんて、大舞台がすぐそこだったときに、先の話なんてされたくないか。この夏、いちばん速い球を投げるのは君じゃない。いちばん熱い球を投げるのが、いちばん強い球を投げるのが、なんだかいちばん凄い球をなげるのが、君であってほしいと思っています。今から君の過ごす夏が、君を一生奮い立たせる夏になりますように。

よし、頑張れ。

2022夏 齋藤佑樹

(J P日本郵政グループHPより)

「前を向くため必要なもの。それは記憶だと思います。」という言葉にハッとさせられました。本郷台小の子ども達が重ねる日々の記憶。自分たちがやってみたいと願うことを、仲間と共に創りあげたいと願うことを、壁にぶつかったらそれを乗り越えようと行動していくことを、自分たちの学びを自分たちで創り上げた、という記憶になるよう、教職員一同、これからも子ども達をしっかりと支えていきたいと思っています。第2ステージ以降は、運動会やかかやきステージなど、子ども達が創り上げていく大きな学びの場面がたくさんあります。感染症対策は続きますが、心の瑞々しさや温かい気持ちを忘れることなく、ひまわりのように、明るく元気に前期第2ステージをスタートさせてまいります。地域の皆様、保護者の皆様、今後ともご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。